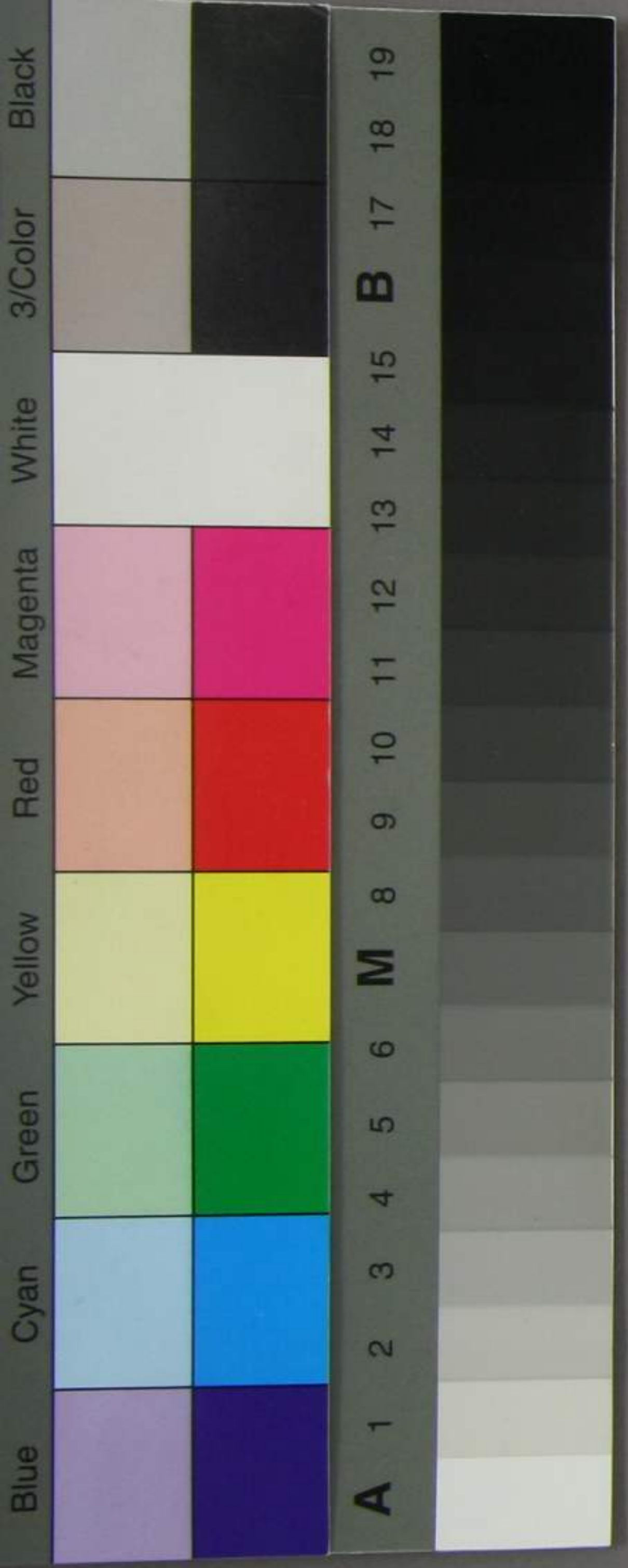


114
A 4111



大正十一年
大正
候爵邸
寄

法律ニ服従スルハ人道ノ要件ニシテ之ヲ由テ自己ノ幸
 福ヲ庇廕シ之ニ由テ一國ノ國安ヲ保持スル者ナリ故ニ
 臣民ニレテ法律ニ服セス政令ニ従ハサレバ何ニ由テカ
 政府ノ下ニ立テ一國ノ國安ヲ保持シ自己ノ幸福ヲ庇廕
 スルヲ得ンヤ恭惟ルニ
 高皇產靈尊ノ命ヲ以テ
 大國主神ニ勅シ五七ニ御言ニ汝所治頭露之事宜是吾孫
 治之汝則可以治神事又
 天照大神ノ命ヲ以テ
 皇孫命ニ勅シ五七ニ尊原千五百秋之瑞德國是吾子孫可
 王之地也宜爾皇孫統而治焉行天寶祚之隆當與天壤無窮



者矣トノ神勅ハ乃由興ノ一宰ヲ定メ五ニ斯民ノ奉戴ス
ル所ヲ立玉ヘル神法ニシテ即万世不易ノ法律ナリ故ニ
我

皇國ノ方針無比ノ國体ニシテ

皇統ノ天壤無窮ナル所以ハ則斯神勅ヲ以テ確定シ玉フ
ニ因レリ而シテ歷世ノ

聖皇之ニ由テ天下ヲ經綸シ玉ヒ臣民モ亦之ニ由テ尊奉
ノ衷誠ヲ致スヲ以テナリ然レハ國体ノ尊嚴ヲ維持シ

皇統ノ万世不易ヲ補翼セシト欲スルハ

天神ノ嚴勅ヲ遵奉確守スルヲ要ナルハ無シ呼

皇室ノ益栄昌ナル國体ノ彌鞏固ナルハ人民ヲシテ一ニ

斯

神勅ヲ信奉スルノ心ヲ生セシメ

皇孫命ハ顯事ニ君臨シ玉ヒ

大國主神ハ由事ニ主宰ト坐ス大本ヲ明ニシ以テ適從ス
ル所ヲ悉ラシメサルニ在リ或曰ハシ

大國主神ハ顯事ニ關スル所ナケレハ之ヲ尊奉セサルモ
國体ニ於テ何ノ害アラント是夫ニ然ラサルノニ抑由顯

ヲ分任シ玉ヒシハ同時ノ事ニシテ猶車ノ兩輪ノ如ク實
ニ一體ノ表裏ナリ決シテ偏廢偏信スヘカラス故ニ其由

事ヲ此ニ玉ヘル事ヲ信認セサル民ハ之ニ對スル顯事ニ
君臨シ玉フ上ニ關係ナシト云フヘカラス然ルニ近來

大國主神ヲ由冥主宰ニテラスト論スル者アルハ即
天神ノ嚴勅ヲ遵奉セテ者ニシテ國体ヲ毀損シ

皇基ヲ輕侮スル者ナレハ一謂公律ニ服從セシテ國安
ヲ妨害スルト具乖執レカ重キヲ知ラズ此大事ニシテ独
教導職ニシテ委シテ政府ノ関スヘカラサル者ト爲シカ
皇室ノ重事ナリ國家ノ大事ナリ焉ソ輕マ不問一世人ハ
ケニヤ若シ政府ニシテ之ヲ不問ニ措カハ何ヲ以テカ國
体ヲ維持シ
皇室ノ榮昌ヲ圖ラントスルヤ速カニ以テ詔諭論ヲ更除
シ人心ヲシテ尊信スル所ヲ誤ラシメサルノ處置ヲナサ
ルヘカラス具處置ハ他ニアラス
皇上親ラ斯嚴勅ノ尊信スヘキ所以ノ賢ヲ示サセラレ天
下億兆ヲシテ
天神ノ出處ヲ祀シ五へル

大國主神ヲ信奉スルノ心ヲ純ナラシメテ一頭事ニ君
臨シ五フ
聖德ヲ敬仰尊奉スルノ民心ハ斯セスシテ厚キニ至ルヤ
必セリ若シ
皇上ニシテ大
大國主神ヲ信認シ五フ所以薄キニ至ラハ則人民ヲシテ
天神ノ嚴勅ヲ遵奉スル心ヲ薄カラシメテ五フ者ニシテ豈
大國主神ノ信頼スヘキヲ誤ルノニ止ランヤ頭事ニ君
臨シ五夫本ヲ信奉スルノ人心モ亦將ニ是ヨリ薄キニ至
ルノ大害ヲ来タリントス豈恐懼戒慎スヘキノ極ヲラス
ヤ吁嗟焉モ
皇室ヲ尊奉シ國体ヲ維持セシテ欲スル者ハ死ヲ致シテ

以テ斯道ヲ明ニシテ斯理ヲ辨セバハ可カラス是尊福カ神
初ヲ奉シテ斯故ヲ知メ身ヲ以テ國原ノ犧牲ニ供セント
欲スル所以ナリ故ニ尊福常ニ人ニ昔テ曰ク
天神ヲ尊崇スル所以ハ其初命ヲ遵奉シ顯ニ於テハ
皇上ヲ奉戴シテ氣心ナク必
朝音ヲ遵守シテ

皇化ヲ翼賛シ

皇威ヲ萬世ニ輝スハク幽ニ於テハ
大國主神ヲ信賴セテ迷惑セス必經國ノ神業ヲ奉承シテ
國壘殖産ノ功ヲ奏シ
朝廷守護ノ神意ヲ景慕シテ誠意ノ力ヲ戴スヘシ然ラサ
レハ何ヲ以テ力神道ヲ奉スル信後ノ實スランヤト

大國主神ヲ信奉スルヲ如此ハ独リ幽事ニ主宰タル徳ヲ
信奉スルノミナラス國壘殖産ノ業ヲ感テシムルノ起
因タルヲ信奉スレハナリ又或人言ニ

大國主神ハ國家ニ功アル神ニシテ
皇室ニ忠誠ナルニアラサレハ今ヤ國權論ノ漸ク盛ナル
ニ際シ人民ヲシテ斯神ヲ敬仰スルノ心ヲ厚ララシムル
皇位ヲ輕シ臣威ヲ踏スノ媒タルニ非ルヲ得ンヤト吁嗟
何ソ惑ヘルノ是ニキニ決ニ至ルヤ

大國主神

皇室中護ノ神ニシテ

天統ニ忠誠ナルヲトハ古事記ヲ本然ルニ出雲國道神賀
辭ニ明カナリ也

高皇產靈尊ノ勅シテ
ニシテ
皇室ニ忠誠ナラス敬仰スルニ足ラズ
勅ヲステ顯事ノ君主ヲ定メ五ヘルト共ニ為事ス
フ可ケンマ且現今ノ制出雲大社ハ官幣大社ニ列シ五ヘ
リ然ルニ此神ヲ輕ク慢侮シ論スルハ
朝憲ヲ蔑シ

先代ノ舊辭

皇家ノ綱紀タルニ典ヲ廢スル者ト謂ハサル可カラズ其
他喋々辯スルヲ要セズメ者トハ此顯分任ノ神勅ハ万世
不易ノ法律ニシテ
皇統ノ因テ定ル所國體ノ因テ立ツ所ナレバ天下億兆ヲ

シテ尊信確守スルニ至ラシメ玉ハンコトヲ伏テ懇願ノ至
ニ堪ヘス誠恐誠惶謹白

明治十三年十二月

大赦正千家尊福



大隈參議殿

